



## おくすりを飲むときに注意すること

- ◆ おくすりはシートから取り出してお飲みください。
- ◆ 次のような方は使う前に必ず担当の医師と薬剤師に伝えてください。
  - 以前におくすりを使用して、かゆみ、発疹などのアレルギー症状がでたことがある。
  - 腎臓に障害のある人、肝臓に障害のある人。
  - 高齢の人。
  - てんかんなどのけいれんを起こす病気がある人、または過去にこれらの病気を起こした人。
  - 妊娠中、妊娠している可能性がある。授乳中。
  - 他におくすりなどを使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、他に使用中の一般用医薬品や食品も含めて注意してください）。
- ◆ 生活上の注意
  - 眠気を催すことがありますので、車の運転など危険を伴う機械の操作は行わないでください。
  - アルコール（飲酒）は、おくすりの作用を強めることがありますので、アルコール（飲酒）は避けてください。
  - 季節性のアレルギーの場合は、その季節の直前に飲み始めて、アレルギーの季節が終了するまで、指示に従って飲んでください。
- ◆ 保管上の注意
  - 乳幼児、小児の手の届かないところで、直射日光、高温、湿気を避けて保管してください。
  - おくすりが残った場合、他の人に渡してはいけません。余ったおくすりの処分方法については、受け取った薬局や医療機関に相談してください。

## このおくすりを使ったあと気をつけて いただくこと(副作用)

- ◆主な副作用として、**眠気、頭痛、疲労、倦怠感、口渇、吐き気、浮動性めまい**などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。
- ◆まれに下記のような症状があらわれ、[ ]内に示した副作用の初期症状である可能性があります。このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。
  - 呼吸困難、血圧低下、蕁麻疹[ショック、アナフィラキシー]
  - けいれんが起こる[痙攣]
  - 全身倦怠感、食欲不振、皮膚や白目が黄色くなる[肝機能障害、黄疸]
  - 鼻血、歯ぐきの出血、皮下出血[血小板減少]

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。

上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。



## 飲み方

- ① 飲むときはコップ1杯程度の水またはぬるま湯と一緒に飲んでください。
- ② 飲み忘れた場合は、気がついた時にできるだけ早く1回分を飲んでください。  
ただし、次に飲む時間が近い場合は、忘れた分は飲まないで、1回分を飛ばしてください。  
絶対に2回分を一度に飲んではいけません。
- ③ 誤って多く飲んだ場合は、医師または薬剤師に相談してください。
- ④ ご高齢の方は、特に医師の指示を守って使用してください。
- ⑤ 医師の指示なしに、自分の判断で飲むのを止めないでください。

医療機関・薬局名